

大肥川筋災害復旧助成事業における川づくりについて

Keywords : 河川景観への配慮, リーフレット等による普及, 護岸整備



施工要領 (抜粋)

大肥川・宝珠山川における石積の施工要領～工事担当者の皆様へのお触れ～
 大肥川・宝珠山川の災害復旧工事で、美しい景観と河川に馴染み、景観を向上させることが求められます。このため、石積工事では次の施工を推奨し、美しい景観と強固な護岸構造の構築をお願いします。

◆石材の積み方 (石積護岸の積みイメージ① 標準30cmを想定)

- ▽ 護岸天端高
- ▽ 小径
- ▽ HWL
- ▽ 計画河床高
- ▽ 計画水深 (30cm程度)

●石積の積み方 (石積護岸の積みイメージ② 標準30cmを想定)

- 面を通し、網目のコンクリートで閉鎖層を構築する (表面を通す)
- 下流から上流に向けて「大きめの石を小さめの石」で積む
- 網目の構造、層厚30cmを確保
- 網目は同じ程度の石で埋め残す
- 網目の石で埋め残す

◆石材の配置

- 網目をコンクリートで閉鎖層にする (表面を通す)
- 網目の構造、層厚30cmを確保
- 網目は同じ程度の石で埋め残す

◆小径石の配置

- 網目の構造、層厚30cmを確保
- 網目は同じ程度の石で埋め残す

◆参考となる施工事例① (積み方、間隙、小径止部の配慮)

- コンクリートが石の隙間から表面に出ないよう、必要に応じて小径の石で閉鎖層を作る
- 小径止ライン
- 小径止ラインはコンクリート製護岸は別種材の石で構築する

◆参考となる施工事例② (水防部の配慮)

- 天端を通し、コンクリートは必要がない
- 網目は同じ程度の石で埋め残す
- 網目の石で埋め残す

平成29年7月九州北部豪雨で被災した大肥川において、東峰村復興計画を考慮しながら、今回事業の明確な目標を設定。限られた時間の中で実施する災害復旧事業で施工業者と完成イメージを共有するため、施工要領を作成し、事業に取り組んだ事例を報告する。